

令和5年度全国学力・学習状況調査の公表に係る教育長コメント

令和5年7月31日

本年4月18日に実施しました「令和5年度全国学力・学習状況調査」の結果が、本日公表となりました。今回の調査は、悉皆調査としては13回目、抽出調査を併せると15回目となり、中学校では4年ぶりに英語の調査も行われました。

まず、校種別・教科別に結果をみてみますと、小学校の国語では県平均と全国平均との差が+2.1ポイント（昨年度比+1.4）、算数では+2.2ポイント（昨年度比-0.3）となっており、引き続き、全国上位に位置しています。

中学校の国語については、全国平均との差が-1.3ポイント（昨年度比+0.6）、数学では-2.4ポイント（昨年度比+2.6）となっています。それぞれにまだ全国平均には達していないものの、特に数学は、昨年度の結果から大きな改善がみられております。ただ、英語は、-6.4ポイント（前回令和元年度比-2.8）と全国平均を大きく下回る結果となっています。

小学校においては、若年教員と経験豊富な教員がチームで学び合う「メンター制」や複数の教員で授業を担当する「教科担任制」の導入などにより、組織的な授業改善が行われていることが成果につながっているものと考えます。

中学校においては、特に、数学については、昨年度の結果を受け、数学科教員をはじめ、学校全体で授業改善の方向性を共有し取組を進めてきたこと、また、指導主事等による支援訪問を充実し、PDCAサイクルの徹底を図ってきたことにより、改善が図られているものと思います。

英語については、基本的な語彙の習得や文法事項の理解といった「知識及び技能」の定着に大きな課題がみられており、さらに授業改善を図っていくことが急務であると考えております。

質問紙の結果をみてみますと、ICT 機器を、毎日の授業で活用している学校の割合は、昨年度と比較すると小学校では 26.1 ポイント、中学校では、19.5 ポイント増加しており、タブレットを日常的に活用した授業が行われるようになっていくことがわかります。今後さらにその効果的な活用について研究し、取り組んでまいります。

また、昨年度も課題となっていた家庭学習については、平日も休日も「全く勉強しない」と答える児童生徒が今年度も増加する結果となっています。ICT を有効に活用するなど授業と家庭学習のサイクル化に向けた取組を徹底していかねばならないと考えております。

県教育委員会としましては、これまでの取組を検証したうえで具体的な改善策や効果的な方策を市町村教育委員会と一緒に講じ、主体的に学習に取り組む児童生徒の育成を図ってまいりたいと考えております。さらに、ICT を活用し、全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを着実に推進することで、高知県の児童生徒の学力の定着と向上に努めてまいります。

高知県教育長 長岡 幹泰